

介護保険[新総合事業]へ

「要支援 1・2」サービス、来年度も現行どおり継続します

9月9日の本会議一般質問で、私は半年後に迫った介護予防事業の「新しい総合事業」への移行についてたどしました。ポイントは、いま「要支援 1・2」の人が受けている訪問介護・通所介護サービスが、安上がりの「緩和された基準にもとづくサービス」に下げられないか、という点です。

市の答弁は、「現行の介護サービス水準は維持継続する、『緩和された』サービスは鈴鹿市は行なわない」とのことでした。他市の事例では、これまでのデイサービスが受けられなくなり、かえって状態が悪くなった、などの問題が出ていますが、鈴鹿市は変更なしと明言されたので、ひと安心です。

「多様なサービス」は現行サービスにプラスして

介護保険から「要支援」を外して、無資格者やボランティアによる「多様なサービス」に振り分けようというのが、政府が進める「総合事業」のねらいです。しかし決めるのは、サービスを行なう各自治体です。国の言いなりならず、市民の「介護を受ける権利」を守っていこうとの姿勢を、これからも堅持することを求めます。

私は「多様なサービス」や市独自の高齢者施策は、今の「指定事業者による専門的サービス」にプラスして利用することにすべきだと提案しました。例えば、週2日デイサービスを利用する人が、他の日はボランティアに来てもらう、地域の「通いの場」に行く、などを組み合わせる方法です。一方、「専門的サービス」を無くして、「多様なサービス」だけに振り分けるという方法は、ただの「切り捨て」です。

政府はさらに「要介護 1・2」まで介護保険から外そう、まず福祉用具や住宅改修を自己負担化しようとしています、とんでもないことです。

Cバス新車両、10月から運行します



市役所前で新車両のお披露目

走り出してから15年を超えたCバス、住民におなじみとなった黄色いバスが、この10月から新しい車両になります。

新車両は窓やドアが広く大きくなり、車いすでの乗車も可能になります。また車高が停止時に下がり、乗りやすくなります。車内を見ると、座席が対面式から前向きになり、乗り心地も良くなっています。ただ、座席数が少なくな

り、朝夕の混雑時の問題は残ります。

しかし一方で、新車両と引き換えに4月から料金が引き上げられ、その影響で乗客数は15%も落ち込んでいます。市はバスの周りを広告でラッピングして収入を少しでも増やそうとしていますが、乗客を増やして料金収入を得ることをもっと工夫すべきだと思います。また私は、高校生や高齢者の割引や定期券の発行で、乗客の負担を抑えることを求めています。交通弱者のためのバスだという原点を、大事にしてほしいものです。

小中学校エアコン設置、業者決まる

16,17年度で市内全小中学校の教室にエアコンを付ける事業が、動き出しました。プロポーザル（提案型）で業者を決める方法により、20日の選定委員会で決まったのが「三菱UFJリース」、また「協力事業者」は「ダイキン工業」と発表がありました。市内40小中学校の875教室に、リース方式でダイキンのエアコンを取り付ける事業だということです。

この事業の正式名称は、環境省の「公的施設等先進的CO2排出削減モデル事業」といい、エアコン設置だけでなく、合計300kWの太陽光発電設備などとセットの事業なのです。まだこれから三菱UFJと鈴鹿市が10月、環境省に補助金申請し、その決定が11月に出たら正式にスタートするという、いくつものハードルがあります。それでも国の補助金が3分の2という高率、2年で仕事が終わるといい好条件なのが魅力です。

通常なら毎年2～3校ずつ、ぼちぼち進めていけば10年もかかるエアコ

ン設置がいきに進む、しかも財政負担が少なくて済む、という大きなメリットがあります。

地元業者に仕事を回す経済波及効果が課題

環境省の補助決定を得て、事業実施の見通しが付いたところで、実際に各学校にエアコンを取り付ける工事を、鈴鹿市の業者に積極的にお願いするとされています。市の財政負担分でも10年で16億円という大きな事業ですから、それ以上の波及効果が期待されます。

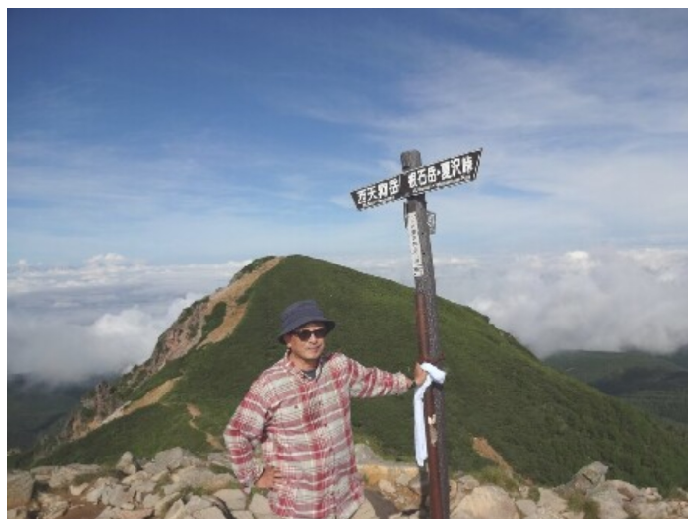
ゴミ焼却灰処理費 2 億円が安くなる

いま市の清掃センターで焼却したゴミの「灰」は、遠く九州まで運んで処理しています。その費用は、毎年2億円余もかかっています。決算の委員会質問で、いつまで九州へ持っていくのかを聞きました。担当課の回答は、いまの委託契約は今年度までで、来年度に向けて三重県内での処理に変えるべく話を進めているとのことでした。

焼却ごみの「灰」は、炉から出る「主灰」が8割、煙とともに出る「飛灰」が2割。このうち「主灰」が県内処理で済むようになれば、費用もグンと安くなるのではと思われます。清掃センター自体も、もう更新の時期を迎えますので、費用を抑える工夫をしっかりと考えていかなければなりません。

この夏は、北八ヶ岳に登りました

8月のはじめに、北八ヶ岳の天狗岳（2646m）に登りました。ムリをせずゆったりした行程で、1日目は中山峠下の黒百合ヒュッテで泊り、2日目の午前中に天狗岳まで往復、午後には下山し、蓼科の温泉宿でゆっくり。3日目は車山の頂上へリフトで登り、西天狗、東天狗と合わせて3山の頂上を踏破！と自己満足しました。



ずいそう



「赤狩り」とトランボ

映画「トランボ・ハリウッドに最も嫌われた男」は、三重県での上映館はなく名古屋まで見に行ったが、それ以上の値打ちのある映画だった。

ハリウッドの売れっ子脚本家ダルトン・トランボは、1947年全米で「赤狩り」が横行する中、議会で「君は共産主義者か」と問われ証言を拒否、「国家の転覆をもくろむ破壊分子」のレッテルを貼られ仕事を失い、50年刑務所に1年間収監される。出所後は「トランボ」の名で仕事はできず、偽名で脚本を書いていたが、54年「ローマの休日」がアカデミー賞を受賞。実名で復活したのは60年「スパルタカス」で、やっと名誉回復を果たした。その間10年余、彼は信念を曲げず、仲間を裏切らず、家族を守りつづけた。

権力に屈せず信念をつらぬいた気骨の人

アメリカの「赤狩り」のころ、日本でも「レッドパージ」が吹き荒れた。GHQマッカーサーは、50年日本共産党を非合法化、官公庁、教育機関、大企業などから共産黨員や支持者が追放された。平和憲法が制定されたばかりの日本で、公然と民主主義と人権が侵害された事件であった。

その背景にあったのが、アメリカとソ連の間での東西「冷戦」で、資本主義陣営対社会主義陣営という対立構図が、各国内の政治にもそのまま反映された。アメリカでも日本でも、社会主義・共産主義に関わる団体や人物は、とにかく「破壊分子」のレッテルを貼られて排除されたのである。それは、その人と家族の人生をも大きく狂わせた。

しかしトランボたちはめげることなく創作活動をつづけ、偽名での作品を次々に大ヒットさせていった。この辺がいかにアメリカ的で、当時のハリウッドの名作の多くが「共産主義者」の作だったというのは実に痛快であり、「赤狩り」がいかに理不尽なものだったかを事実で証明している。2015年にハリウッドで、このトランボを主人公にした映画が出されたことは、自由と民主主義を大切にす、アメリカの良き一面を表わしている。一方、今アメリカでは、一字違いの「トランプ」という物騒な人物にけっこうな支持が集まっている。日本の「アベ」とよく似た頭の持ち主のようで、こんな大統領と首相が揃ったらどうなるのか？と先が思いやられる。